

まだ梅雨は明けませんが、暦は8月！ 夏本番をミタクリと元気に乗り切りましょう！

「そろそろ梅雨もあけ・・・」と先月号に書きましたが、梅雨前線の気まぐれで集中豪雨のニュースがしょっちゅう入っていて、なかなか明けませんね。湿度も、高く、ムシムシしているように感じますが、実はこの80年間の記録をみると、最も湿度の高かった時期は1950年までで、平均湿度が80%だったそうです。その後は次第に低下し、案外夏場も乾燥しているわけです。粘膜の潤いを大切にして毎日を過ごしましょう。

【ニュース】

1. 診療日の変更をお知らせします。ミタクリでは、お盆休みはありませんが、かかりつけ薬局によってはお休みのところがありますのでご確認ください。

8月24日（月曜日） 巽外来 休診（三谷代診）

8月25日（火曜日） 三谷外来 夜診のみ休診

8月26日（水曜日） 巽外来のみ休診

2. 当院での新型インフルエンザの対応について

7月29日付の堺市保健所の手引きでは「すべての医療機関で新型インフルエンザの方は対応する」ことになりました。今後は、発熱センターや発熱外来の受診は必要ありません。インフルエンザのキットも、ミタクリでは現在充足しています。ただし、受診に先だってお電話をいただくことになっています。感染拡大予防の立場で混雑した時間を避け、受診時間を指定させていただくこともありますので、よろしくお願い致します。 堺市新型インフルエンザ相談電話：

072-228-7023

【ミタクリ歳時記 春日の万灯籠（とうろう）】

8月15日の中元疫神祭には春日神社の三千基の燈籠が一斉に点火されます。うっそうと生い繁る老樹の間に、苔むした燈籠に火がともりますと、神秘的な雰囲気生まれます。燈籠祭の本質は、祖先の冥福を祈り、盆の精霊を迎える「迎え火」と「送り火」です。春日大社は藤原氏の氏神であり、興福寺の鎮護社として尊崇されます。8月15日には、南門に大きな茅（ちがや）の輪がつけられ、参詣人はこれをくぐります。これは夏越祓（なごしばらい）という神事であり、ナゴシは、神意をやわらげるといふ意の「和し」ともいわれます。古くは茅の小さい輪を腰につけて厄除けにしていたわけですが、茅の輪くぐりに変わっています。漢方で、茅根（ボウコン）は利尿、止血、月経不順などに用います。また、豚肉や赤小豆とともに煮て食物としても用います。茅は予（ホコ）ヤリのような武器で、こうした武器に似た草（イネ科）ということで厄除けに用いられます。

春日大社のほとんどの燈籠は江戸時代に京・大阪の町人たちによって寄進されたものです。裕福な商人たちは西鶴によって「樹木や築山の眺めよりも、金銀をため蔵がたち並んでいるのを見るのがよい。四季の移り変わるおもむきより、値上げを見越して買占めをする気分がよい」と書かれ、新興商人にとって頼れるものは金銭のみという考えかたです。しかし、王朝文化にたいするあこがれは強く、春日大社には奉納したわけです。かつては常夜燈として毎日点火されていたのですが、現在では八月十五日と二月の節分祭だけに点火されます。

3. 待合室に本棚ができました！

ミタクリの待合室に待望の本棚ができました。是非、皆さん方に読んでいただきたい本を並べたいと思います。おすすめ、持ち込み大歓迎です。どうぞ、積極的にご意見箱にご紹介ください。

4. 恒例の北王子盆踊りが駐車場で行われます。これに伴い、商店街の駐車場は8月7日（金）午後5時から駐車禁止です。よろしくお願ひします。

【川柳投稿コーナー】

胸焼けは 嘔門がする 憤悶だ（我乱堂さん）

評：「ふんもん」を見事にいいあててますね、うまい！

愛犬と 喉を潤す 石清水（今回は俳句のフーさん）

評：楽しそうなハイキングですね お水がおいしそう！

老三人 薬飲んだが 合言葉（ハテナさん）

評：大事なコミュニケーションですね えっほんと？

人生 急がず たまには 憩いの 横歩き（良さん）

評：上手な蟹の絵付きでしたが今回は紙面に余裕なく・・・

ババチ手 猛暑の日でも 長袖や（ゲラ子さん）

評：ババチクありませんよ 満天の夏の星空でしょう

【欣子先生の診察室だより】



先月は5日間お休みを頂きまして上海に東洋医学の研修に行ってきました。前半は猛烈な暑さ(39℃!!)で、どうなることかと思いました。杭州の漢方診療所では患者のふりをして、あちこち見て回りました。入り口では医者顔写真とプロフィールが掲げてあり、診察券を購入します。肩書きによって診察代が違うところが日本の保険診療と違うところですね。偉そうな先生は診察代も高いのです。(三谷先生20元、巽先生10元・・みたいな?) そのあと、その先生の診察室に行くわけですがこれがまたすごい! 3畳ほどの診察室に机とイスだけ。先生は問診と舌診、脈診だけ(腹診: お腹を触る診察は日本漢方独特のものです)で処方箋を書いていくのですが机の周りをぐるりと順番待ちの患者が取り囲んでいるのです! プライバシーもなにもないですね。おもむろに先生がたばこを吸い始めたのにもびっくりしました。ずいぶんとスタイルが違うものですね。そこでいただいた処方箋を薬局に持って行き、百味筆筒から天秤ではかりとった薬草や木の根などをいただき、スライスしたり、粉にしたりして持って帰ります。朝早くから多くの人でにぎわっていて漢方薬が根付いていることを強く感じました。

入り口に和飲(今ミタクリで提供しているお茶)のような清熱(暑いときに熱を冷ます)のお茶が自由に飲めるようになっているのですが、熱々なんです! そう、中国茶の店で飲んだ“冷茶”と書いてある

お茶も常温でしたし、極めつけは上海のテレビ塔でのんだコーラも常温でした・・やはり、冷たい飲み物は体に悪いという漢方の考え方に基づいて?ではないでしょうが・・。

あと特筆すべきは上海中医薬博物館です。一般の方も入れますので興味のある方は是非どうぞ! なにより、日本語音声の説明イヤホンがありますのでよく理解できます。

中国医学の流れについてはまたの機会に。

最後の日、7/22は上海で皆既日食が見られるとあって楽しみにしていましたがあいにくの雨・・しかし、急に真っ暗になって気温がぐっと下がり、街灯やビルの照明が赤々とつきはじめるという奇妙な数分間を体験しました。太陽のありがたみなんて考えたこともなかったのですが、今度ばかりは当たり前のにありがたさに感謝! でした。

【外来担当医一覧 2009年8月現在】

予約電話番号: 072-260-1601

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽	三谷	巽/三谷	巽	巽/三谷	三谷
午後 (14:00-16:00)	巽 (予約)		巽 (予約)	巽 (往診)	巽 (予約) 三谷 (往診)	
夜診 (16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	